

2. 全学共通科目の編成方針と学修の方法

◆ 科目の編成方針

京都大学の教養・共通教育は、主として「全学共通科目」によって担われています。全学共通科目の多くは、各学部の枠を越えて原則として全学部の学生を対象として開講される授業科目です。

先に述べた京都大学の基本理念と教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、教養・共通教育においては以下のような方針により科目を編成しています。

1. 高度な教養、豊かな知性と人間性を涵養する。
2. 学部、大学院での専門教育を受けるための基礎となる知力を育成する。
3. 国際的な広い視野や異文化理解能力、コミュニケーション能力を養う。
4. 社会の変化に対応し活躍するための知識や能力を身に付ける。
5. 対話を根幹とした自学自習の姿勢を修得させる。

これらの教育目標を総合的に実現するため、全学共通科目は異なる教育目的をもつ8つの科目群に区分されています。

① 人文・社会科学科目群

学生が自らを確立し、社会の一員として共生する中で充実した人生を送ることができるよう、人間や社会に対する洞察力や、他者との相互理解を通じて自己のあり方を問う力の涵養を目的としています。

② 自然科学科目群

理系学部の基礎教育としては、理論教育と実験・実習教育の両輪により、自然科学の基本的な知識・思考方法を修得させることを目的としています。また、教養教育としては、仮説と検証により原理・法則に到達することを求める自然科学的な方法論を修得させることを目的としています。

③ 外国語科目群

外国語教育科目は英語と初修外国語で構成されています。教養・共通教育での英語を「一般学術目的の英語」と位置付け、国際共通語である英語によるコミュニケーション力を育成します。初修外国語では、英語以外の言語の習得を通じて、文化や慣習および価値観などの相違を理解し、それぞれの言語圏で蓄積された英知を体得するとともに、より多面的な世界観を持つことを期待します。

④ 情報学科目群

コンピューターや情報リテラシーなど情報活用能力の獲得、情報科学や技術の基礎的概念の理解、および高度情報化社会の課題の考察を目的に科目を展開します。

⑤ 健康・スポーツ科目群

スポーツ実習では、体力向上や健康維持、あるいは正しい生活習慣の確立のために必要な知識を実習を通して理解させます。また理論と実技を連携させる学習を行うとともに、健康、医療あるいは介護についても学ぶことを目的に、科目群を編成しています。

⑥ キャリア形成科目群

キャリア形成科目群は、将来のキャリアに関連した科目を、コンプライアンス、国際コミュニケーション、学芸員課程、多文化理解、地域連携、その他キャリア形成という分野で構成しています。

⑦ 統合科学科目群

環境・エネルギー・自然災害、生命科学や人口動態に関する問題など、現代社会が直面する複合的な課題を多様な視点から検討し、学問分野を統合する形でその解決策を考察する科目として編成しています。

⑧ 少人数教育科目群

問題を見つけ解決するという学問のプロセスを体験する場として、少人数での教育を位置付けています。とりわけ教養・共通教育では、高校での学びとの違いに気づいてもらうことを目的として実施します。

平成30年度から上記の8つの科目群に加えて、本学大学院における共通・横断教育として、

⑨ 大学院共通科目群

大学院共通科目群は、大学院生が、専門学術以外にも素養として備えるべき知識を養成することを目的としています。

⑩ 大学院横断教育科目群

研究科等を横断する学際領域において、他研究科等の大学院生にも公開し、履修を推奨する科目として開講されます。の2つの科目群が設けられ、大学院生を対象とした科目が開講されています。大学院生も上記①から⑧の科目を履修できますが、学部生を優先する科目があるほか、大学院生は履修対象外の科目があります。両科目群は、令和3年10月より、国際高等教育院に代わり大学院教育支援機構において実施されています。

科目群の詳細な内容は、次の「科目群・分野の概要」の節で説明しています。

ロシア語		4	人文社会科学系		0
イタリア語		5	自然科学系		1
スペイン語		6	統計・情報・データ科学系		2
朝鮮語		7	健康・医療系		3
アラビア語		8	キャリア形成系		4
日本語		9	複合領域系		5

④ レベルコード

コード	レベル・対象学年	学部・大学院
1	導入的な内容の科目 (基礎科目、総論科目)	学部
2	基礎的な内容の科目 (各論科目、発展科目、初修外国語中級以上)	
8	大学院共通内容の科目 (大学院共通科目群・大学院横断教育科目群)	大学院

⑤ 通し番号

③および④の計3桁コードが変わるごとに0001から付番しています。

(3) 属性コード詳細

⑥ 授業形態コード

コード	授業形態
L	講義
S	演習
P	実習
E	実験
F	フィールドワーク
O	その他

⑦ 言語コード

コード	言語
J	日本語で行う授業
E	英語で行う授業
B	日本語および英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語（日本語又は英語）を決定する授業
O	英語以外の外国語で行う授業、その他

⑧ 学問分野コード（数字2桁）

- ・「学問分野コード」は、国際高等教育院ウェブサイトの履修科目一覧ページに掲載している「ナンバリングについて」の文書で確認してください。
- ・複数分野にまたがる授業科目については、1つの授業科目に3つまで「学問分野コード」を付与しています。

◆ 学修の方法

京都大学では、各学部がそれぞれの学士課程について一貫して責任をもつ体制をとるとともに、専門教育と教養・共通教育を並列して展開するカリキュラムを編成しています。各学部は、そのカリキュラムポリシーに基づいて、入学から卒業まで、各学年で修得すべき全学共通科目の単位数を定めています。どの科目群から何単位を修得するかは、各学部の卒業要件を満たすように計画してください。

各年次にわたって偏ることがないように適切に履修を進めるために、一年間又は一学期に履修科目として登録できる単位数が決められています。皆さんが所属する学部の枠組みの中で、自らの興味や伸ばしたい能力をよく考え、計画的に履修してください。教養・共通教育として極めて多くの全学共通科目が用意されています。

それぞれの科目群には、基礎から高度な内容にわたる多様な科目が提供されていますが、それらの科目の選択は基本的には学生の皆さんの自由な意志に委ねられています。この環境を生かし、限られた時間にいかに効果的に修得するかは、皆さんの主体的な計画性に依るものです。高い志を持ち、学修計画を十分に吟味することを期待します。

(備考)

平成27年度以前入学者については、従来のおりの卒業要件が適用され、p.259の表のおり読み替えられます。一部の科目は、単位を修得しても卒業に必要な単位としては認定されませんので注意してください。

◆ 単位について

(1) 単位数の計算の基準

授業科目の1単位あたりの学修時間は、45時間を標準とし、おおむね15～45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって定められています（大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）による）。

本学では、1限（90分）は2時間（1コマ）に相当し、一開講期15週、通年30週として計算します。各科目の単位数は「全学共通科目授業一覧」（p.126～）に示しています。

(2) 単位の認定

単位の認定は、履修した科目の成績によって認定されます。なお成績評価は、平成27年度より100点満点の素点で成績評価がなされ60点以上の成績で単位が認定されます（詳細は下記【成績の対応表】参照）。

なお、履修登録をしていない授業科目の単位は認定されず、履修した科目の開講期（前期：4月1日～9月30日、後期：10月1日～3月31日）に休学した場合も、単位は認定されません。

同じ科目名の科目を修得した場合は、一部科目を除き、修得年度・修得期の早いもの1つしか卒業に必要な単位として認定されません（科目名変更により、科目名が異なっても同一科目として扱われる科目を含みます）。

◆ 成績評価の方針

全学共通科目の成績評価は、次の方法によることを標準とします。科目の性質や授業方法に応じて担当教員がその詳細を決定し、成績評価の方法を各科目のシラバスに記載します。

- ① 成績評価は、期末試験（筆記試験、又はレポート試験）と平常点の2区分により行います。期末試験を実施する場合は、筆記試験又はレポート試験を実施し、期末試験と平常点の配点割合を定めます。
- ② 最低出席回数を単位付与の条件とすることがあります。しかし出席の事実だけで加点することはありません。
- ③ 平常点を用いる場合、「小テスト」、「中間テスト」、「課題レポート提出」、「コメントシート提出」、「出席と参加の状況」等の評価の観点と方法（観点毎の割合や点数の計算方法等）をシラバス等で明示します。

授業科目の成績は、100点満点の素点で評価されます。すなわち、合格基準に相当する素点を60点とし、100点を満点とする総合評価で行います。成績証明書には素点を6段階の評語に変換して記載します。素点と評語の対応および評語の適用基準は以下の対応表に記載されている通りです。

【成績の対応表】

◎令和2年度以降に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される者

素点	評語	適用基準	
96～100点	A+	合格基準に達している。	学修の高い効果が認められ、傑出した成績である。 ／ Outstanding
85～95点	A		学修の高い効果が認められ、特に優れた成績である。 ／ Excellent
75～84点	B		学修の高い効果が認められ、優れた成績である。 ／ Good
65～74点	C		学修の効果が認められる。 ／ Fair
60～64点	D		最低限の学修の効果が認められる。 ／ Pass
0～59点	F	合格基準に達していない。	不合格。／ Fail

◎平成 27 年度以降令和元年度以前に入学した学生を対象としたカリキュラムが適用される者

素点	評語	意 味
96～100 点	A+	極めて優れている。／ Outstanding
85～95 点	A	特に優れている。／ Excellent
75～84 点	B	優れている。／ Good
65～74 点	C	合格基準に達しており、学修の効果が認められる。／ Fair
60～64 点	D	合格基準に達しているが、更なる努力が求められる。／ Pass
0～59 点	F	不合格。／ Fail

その他、成績に関する詳細は、「Ⅱ. 全学共通科目の履修について」の「18. 成績について」(p.99～)を参照してください。